

十二月のテーマ  
締めくくり

# 締めくく りの礼

**年**末は忙しいという。一年の締めくくりをしなければならぬので、あちらこちらと飛びまわったり、家の中を片づけたりで、大変だという。

だが、その忙しい締めくくりのお礼ということが、やはりあるのではなからうか。一年間いろいろな人と接してきた人、使ってきた物、その他たくさんお世話になっている。

「今年もいろいろご厄介に相成りました。来年もひとつ、よろしく願っています」

人に対しては、そう言うであろう。そんな挨拶をかくべつしない人もいることだろう。知らん顔をして、自分のことだけに汲汲として過ごす。めんどうだからと年末年始は、旅行をたのしむ人もあるのである。年末年始だけは、ゆっくり休養をとらせてくれと、平素は猛烈に忙しい人が頼んでいるのを聞くと、もつともだとは思う。しかし、どこに居ようと、どんなに忙しかろうと、食事はとるにちがいない。その食事は何で口

入れるか。ナイフとフォークを使う。スプーン、そして箸。

一般に箸を使う人は、それらをまとめて、せめて年末くらいには一度、「今年もお世話になりました。どうもありがとう。来年もよろしく」とお礼のご挨拶をする形をあらわしたらいかがなものであらう。気持ちがさっぱりするだけでなく、こうした物への感謝が、ほかの面にも必ずあらわれて、その人の生活を豊かにするのである。

豊かとは、その人に接するとは何となく暖かいような、たとえ金持ちではなくても心の中にいろいろな財産があるような、またギスギスしていない、洪面ばかりしていない、明るい感じ、そうしたものを持っていることをいう。

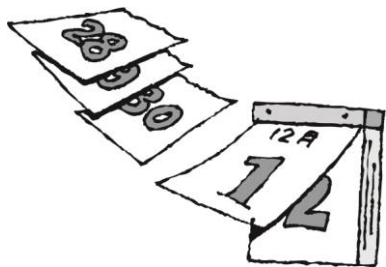
ナイフやフォークばかり使う人でも、クリスマス前後か、あるいは他の適当な日に、一年間の感謝をこめての挨拶をしたらどうであらうか。こうしたお礼の挨拶は、必ずしも仰々しくするには及ぶまい。心もちの、ちよっとした表現でも、しないよりは、したほうが

はるかによいと思われる。

食事の道具に限られてしまったようだが、その他でいえば、たとえば水である。日光や空気とならんで、生物にとって水は欠かすことのできないのは、誰でも知っている。だが、一年間使ってきた水に対して、締めくくりのお礼をのべている人は少ないようだ。天災、人災その他で水がなくなつて、はじめて……といったぐあいなのではなからうか。

日本のように水の豊富などでも、河や湖の水がにごり、また貯水の設備も不十分で、水をよこさぬよう、節水などが叫ばれているが、さて自分自身は日常にどのような水を大切にしているか、水にお礼を表わしているか、考えてみたらどうであらう。むつかしく、面倒にする必要はないけれども、せめて年の暮あたりには、せわしい中にも、箸に対すると同じように、いつも飲み、使っている水に対して、締めくくりの気持ちを表わしてみても……

(月刊『新世』一九八二年十二月号より)



え・小島サエキチ

毎月第一週に配信する「今週の倫理」では、倫理研究所会長・丸山竹秋（一九二一～一九九九）のこゝばを掲載します。

丸山竹秋